



## はじめに

兵庫県立人と自然の博物館（ひとはく）は、2023年に開館31年目を迎え、新たなスタートを切りました。2024年4月より館長に就任いたしました村上哲明です。歴代の館長、そして関係者の皆さまが築き上げてきた「ひとはく」の価値を受け継ぎながら、さらなる発展を目指して全力を尽くしてまいります。

2023年度は、2022年度に策定された「ひとはく将来ビジョン2032」を基盤とした活動の第1歩を踏み出した年となりました。第5期中期目標のもと、5つの目指すべき博物館像を掲げ、その実現に向けた重点目標に基づいて、調査・研究、展示、生涯学習支援、地域活性化、シンクタンク活動を幅広く展開しました。

展示では、「六甲山のキノコ展2023」「妖怪と自然の博物展」「共存する小さな渡来者たち」といった多彩な企画展と、その他、ミニ企画展として「植物学者 牧野富太郎写真展～川崎正悦氏アルバムより～」など9件を開催しました。これらの展示を通して、新たな視点で自然と人の関わりを伝えることができたと考えます。また、コレクションナリウム1階の展示ギャラリーでは、普段は見るできない資料をテーマ毎に蔵出しする収蔵資料スペシャル企画「標本のミカタ～コレクションから新しい発見を生み出す～」を4回開催し、標本・資料の積極的な活用を図りました。生涯学習支援としては、研究員や連携活動グループ等による事前申込制の専門的な「一般セミナー」を180回開催したほか、来館団体向けの「特注セミナー」を230回、来館者が当日に予約なしで参加できる「オープンセミナー」を849回開催しました。本年度で第19回を迎えた市民研究発表会「共生のひろば」は、昨年度に引き続き博物館とWeb上で開催しました。5月には新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたこともあり、館外との連携活動が活発になりました。

2024年度は、開館32年目を迎え、さらなる飛躍を目指します。博物館が地域や社会とともに成長し、未来に向けた価値を創造できる場であるために、多くの皆さまのご支援とご協力をお願い申し上げます。

これからも、人と自然をつなぐひとはくの活動にどうぞご期待ください。

兵庫県立人と自然の博物館  
館長 村上 哲明